

平成 18 年度リスクコミュニケーションの取組について

食品安全委員会のリスクコミュニケーション実績

〔 2006 年 4 月 1 日 ~
2007 年 2 月 28 日 〕

- 委員会の原則公開、議事録等のホームページへの掲載
- 食品健康影響評価等に対する国民からの意見、情報の募集
： 71 回
- 食品安全モニター会議： 10 回
- 食品安全モニター報告： 485 件
- 意見交換会： 68 回
- 食品安全委員会委員の各地での講演等： 11 回
- 食品の安全性に関する地域の指導者育成講座： 13 回
- 消費者団体、食品関連事業者、地方公共団体等と委員との意見交換： 8 回
- リスクコミュニケーション担当者会議の実施： 毎月 2 回程度
- 情報の提供
 - ・ ホームページ、パンフレット、用語集：適宜更新
 - ・ 季刊誌『食品安全』：年 4 回発刊
 - ・ 食品安全委員会メールマガジン(食品安全委員会 e - マガジン)の配信：週 1 回、配信回数 36 回、登録者数 4,033 名
- 食の安全ダイヤル： 782 件 TEL：03 - 5251 - 9220・9221

(別紙)

平成18年度 食品の安全性に関する地域の指導者育成講座 開催実績一覧表

No.	開催地	主催	日程	開催時間	参加者数(人)						講師	
					合計	内訳				(再掲) FSC公 募	講演	講演
						行政	事業者	消費者・ 生協	その他			
1	東京	食品安全委員会 (独)農林水産消費技術センター本部	平成18年 10月18日(水)	10:00-17:00	69	25	27	17	0	18	畑江委員	消費技術セ ンター
2	福岡	食品安全委員会 福岡市 (独)農林水産消費技術センター門司センター	11月21日(火)	10:15-16:35	57	23	19	15	0	8	小泉委員	
3	秋田	食品安全委員会 秋田県 (独)農林水産消費技術センター仙台センター	12月22日(金)	10:30-16:30	58	28	16	8	6	3	日野次長	
4	栃木	食品安全委員会 (独)農林水産消費技術センター本部 栃木県、宇都宮市	平成19年 1月12日(金)	10:00-16:30	48	27	8	12	1	10	永田リスコ ミ官	
5	大分	食品安全委員会 大分県	1月17日(水)	10:00-16:00	54	39	11	2	2	1	永田リスコ ミ官	
6	特別区	食品安全委員会 特別区	1月19日(金)	9:30-16:45	46	46	0	0	0	0	永田リスコ ミ官	
7	三重	食品安全委員会 三重県	1月25日(木)	10:00-16:30	71	50	10	11	0	8	日野次長	
8	大阪	食品安全委員会 (独)農林水産消費技術センター神戸センター 大阪府 大阪市、堺市、高槻市、東大阪市	2月2日(金)	10:00-16:10	84	37	15	25	7	38	小泉委員	
9	徳島	食品安全委員会 (独)農林水産消費技術センター岡山センター 徳島県	2月7日(水)	10:00-16:00	55	26	21	5	3	3	永田リスコ ミ官	消費技術セ ンター
10	埼玉	食品安全委員会 (独)農林水産消費技術センター本部 埼玉県	2月9日(金)	10:00-16:30	83	19	31	23	10	27	永田リスコ ミ官	消費技術セ ンター
11	広島	食品安全委員会 広島市	2月13日(火)	10:00-16:30	72	23	33	15	1	13	永田リスコ ミ官	
12	岡山	食品安全委員会 岡山市	2月14日(水)	10:00-16:30	78	43	15	20	0	7	永田リスコ ミ官	
13	岡崎	食品安全委員会 岡崎市 岡崎市食の安全・安心推進協議会	2月23日(金)	10:00-16:30	103	32	16	54	1	3	日野次長	
14	北海道	食品安全委員会 (独)農林水産消費技術センター小樽センター 北海道	3月2日(金)	10:00-16:30	42	12	13	17	0	0	小泉委員	

合計

920

430

235

224

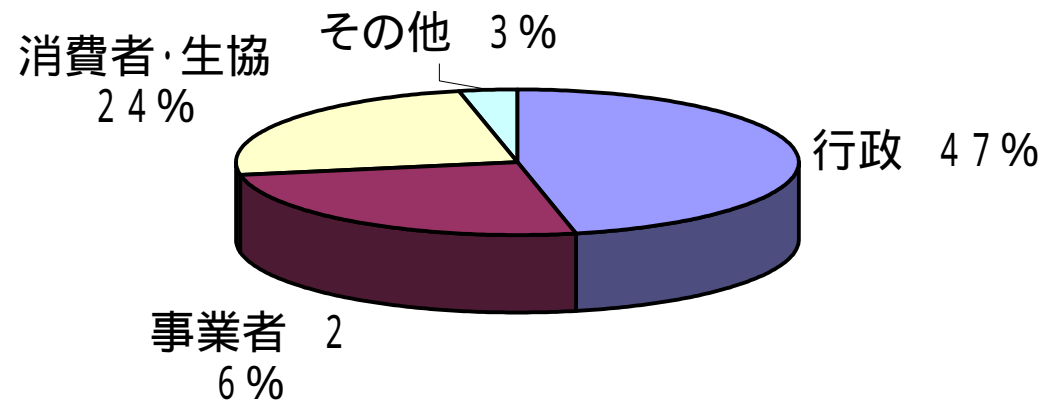
31

139

平成18年度 食品の安全性に関する指導者育成講座 参加者の内訳

参加者合計920人

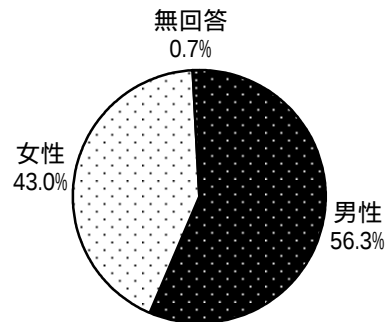
内訳)行政:430人、事業者:235人、消費者・生協:224人、その他:31人



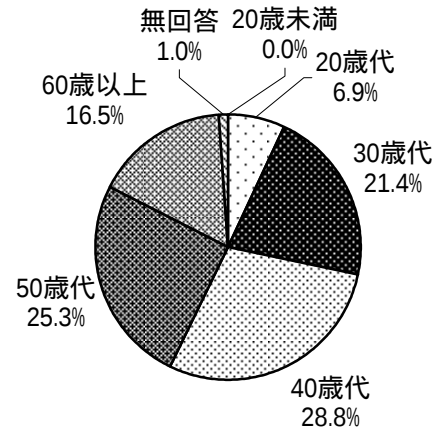
食品の安全性に関する地域の指導者育成講座 アンケート集計結果(特別区を除く)

フェイスシート

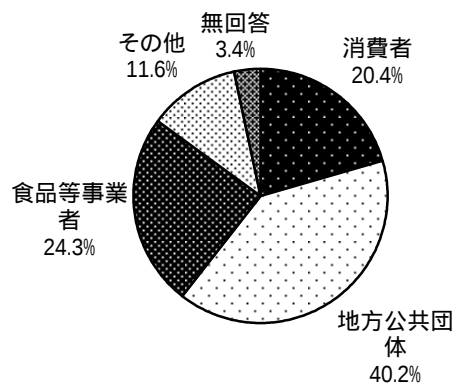
性別



年齢



職業

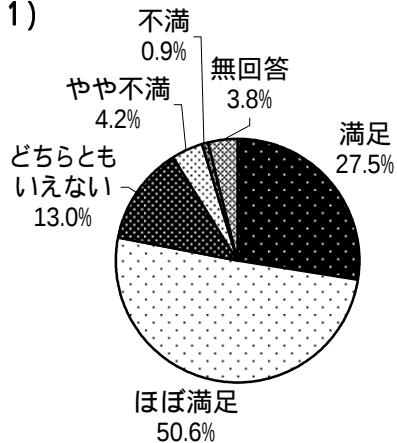


特別区を除いた 参加者数 874
回答者数 730
回答率 83.5%

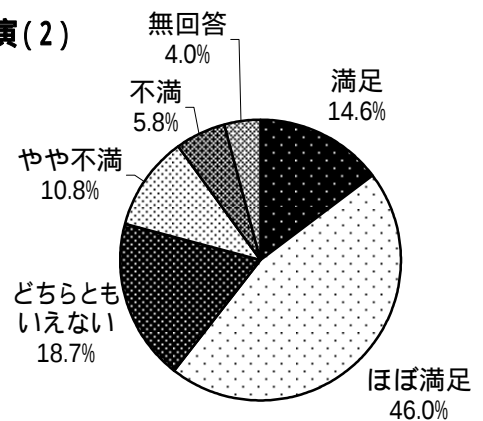
特別区を含めた 参加者数 920
回答者数 774
回答率 84.1%

1. 今回の講習会の内容はどうでしたか。

講演(1)

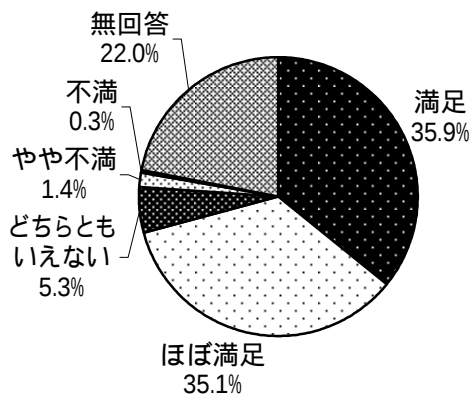


講演(2)

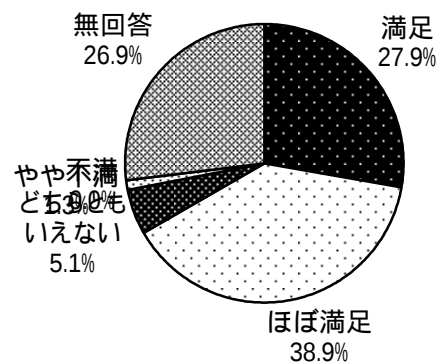


東京、徳島、埼玉の3会場

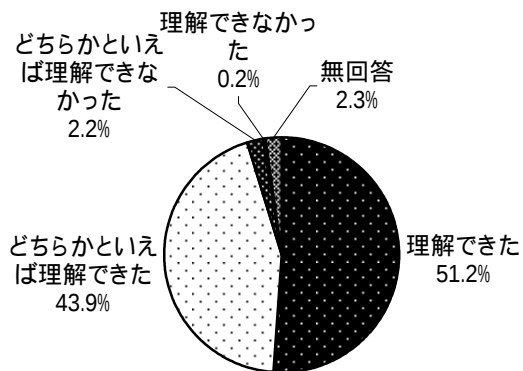
演習



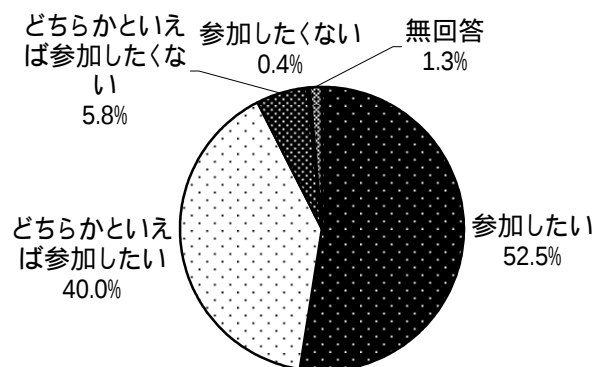
全体を通して



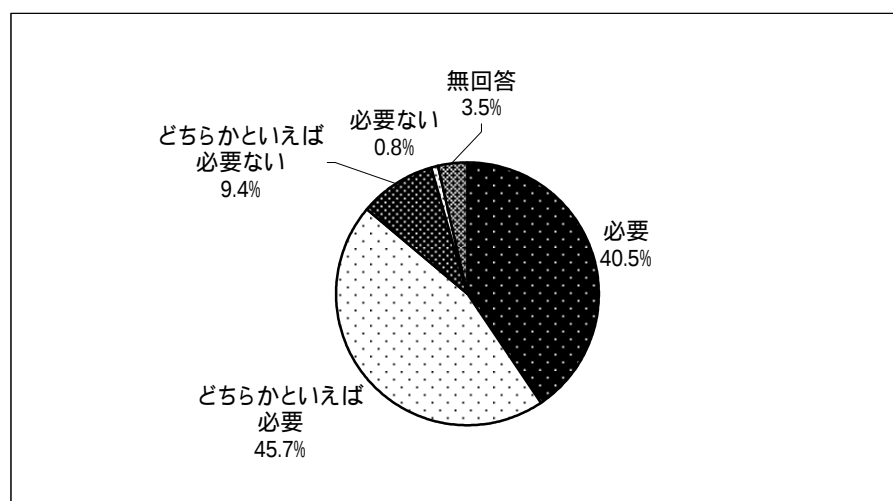
2. 今回の講習会の内容はどうでしたか。



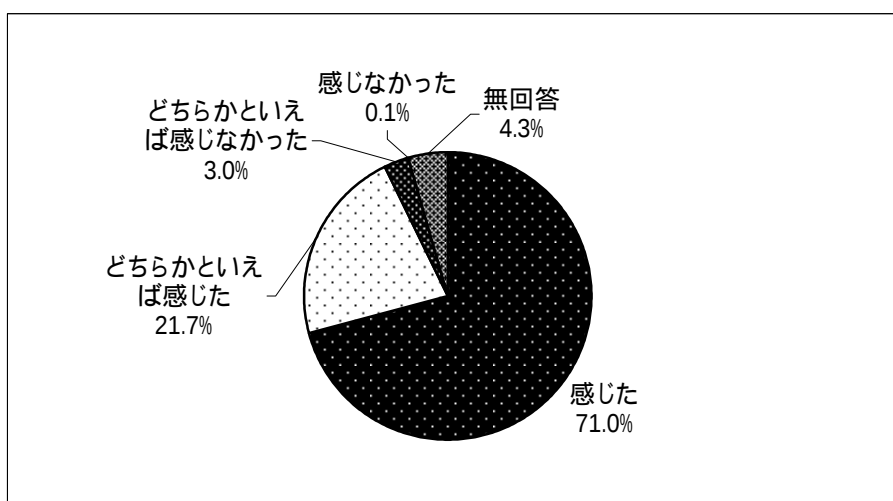
3. 来年以降このような講習会(講座)を開催した場合、参加したいですか。



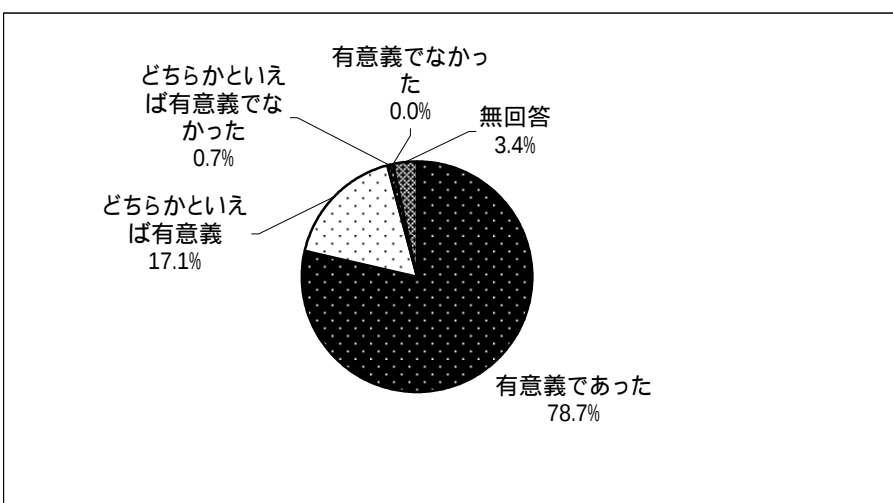
4.このような講習会(講座)を職場等で実施する必要があると思いますか。



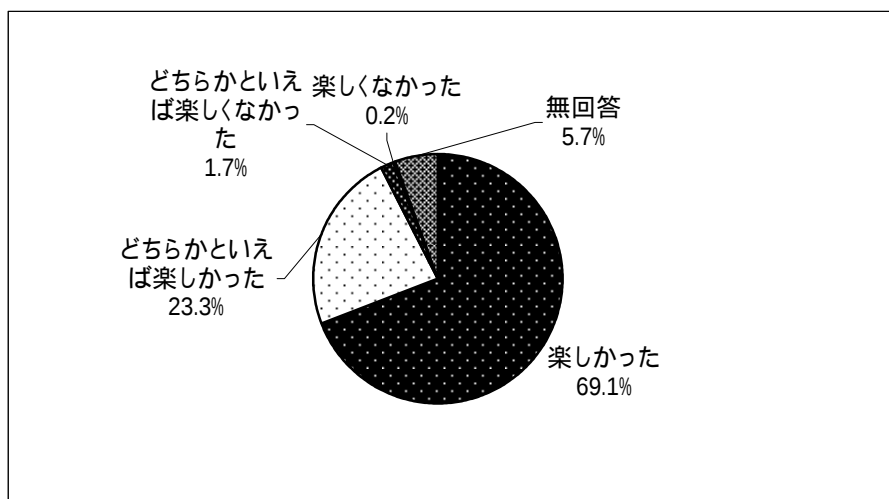
6.今回の意見交換(演習)に参加されて、一つの問題に多様な意見があると感じましたか。



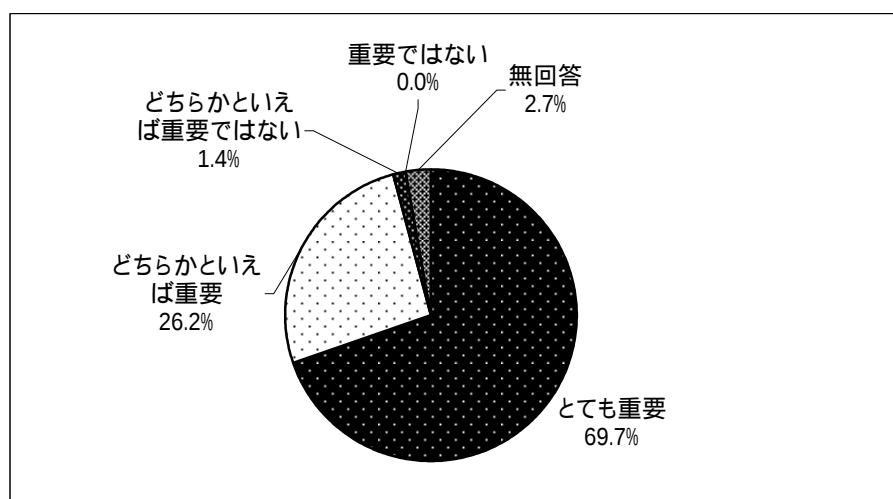
7.今回の意見交換(演習)に参加されて、他の参加者の意見を聞くことは有意義でしたか。



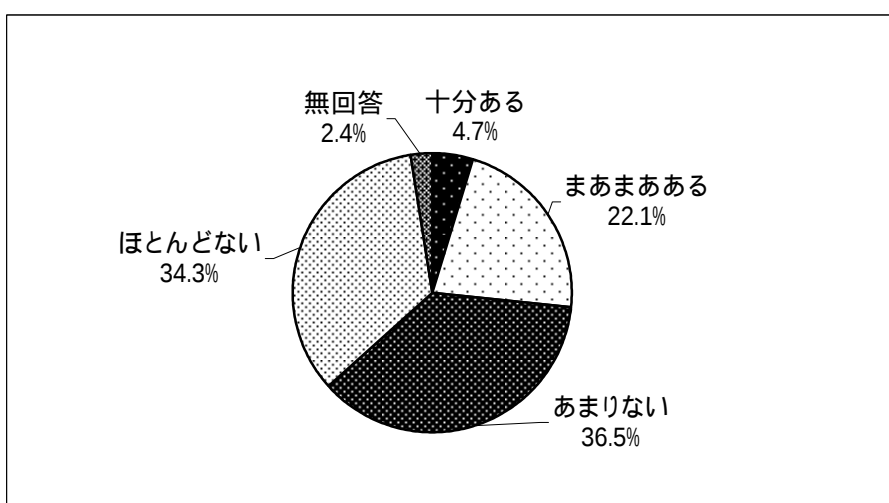
8.今回の意見交換(演習)そのものは楽しかったですか。



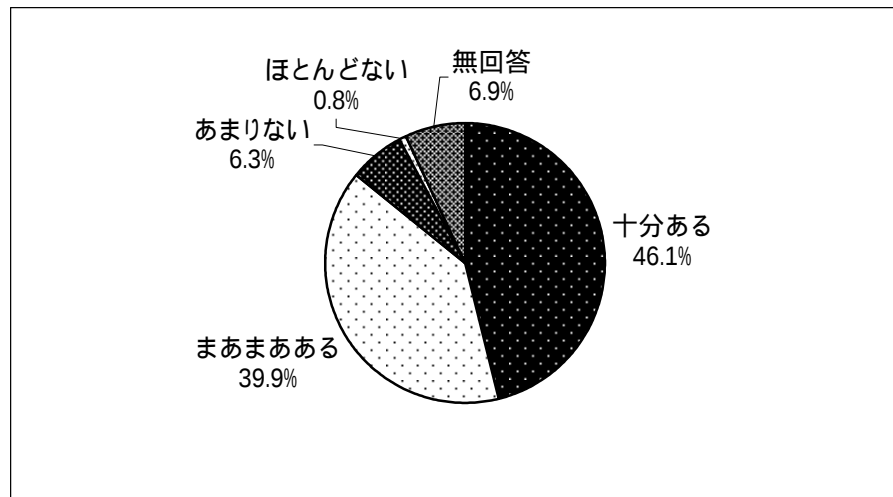
9.リスクコミュニケーションについてどう思いますか。



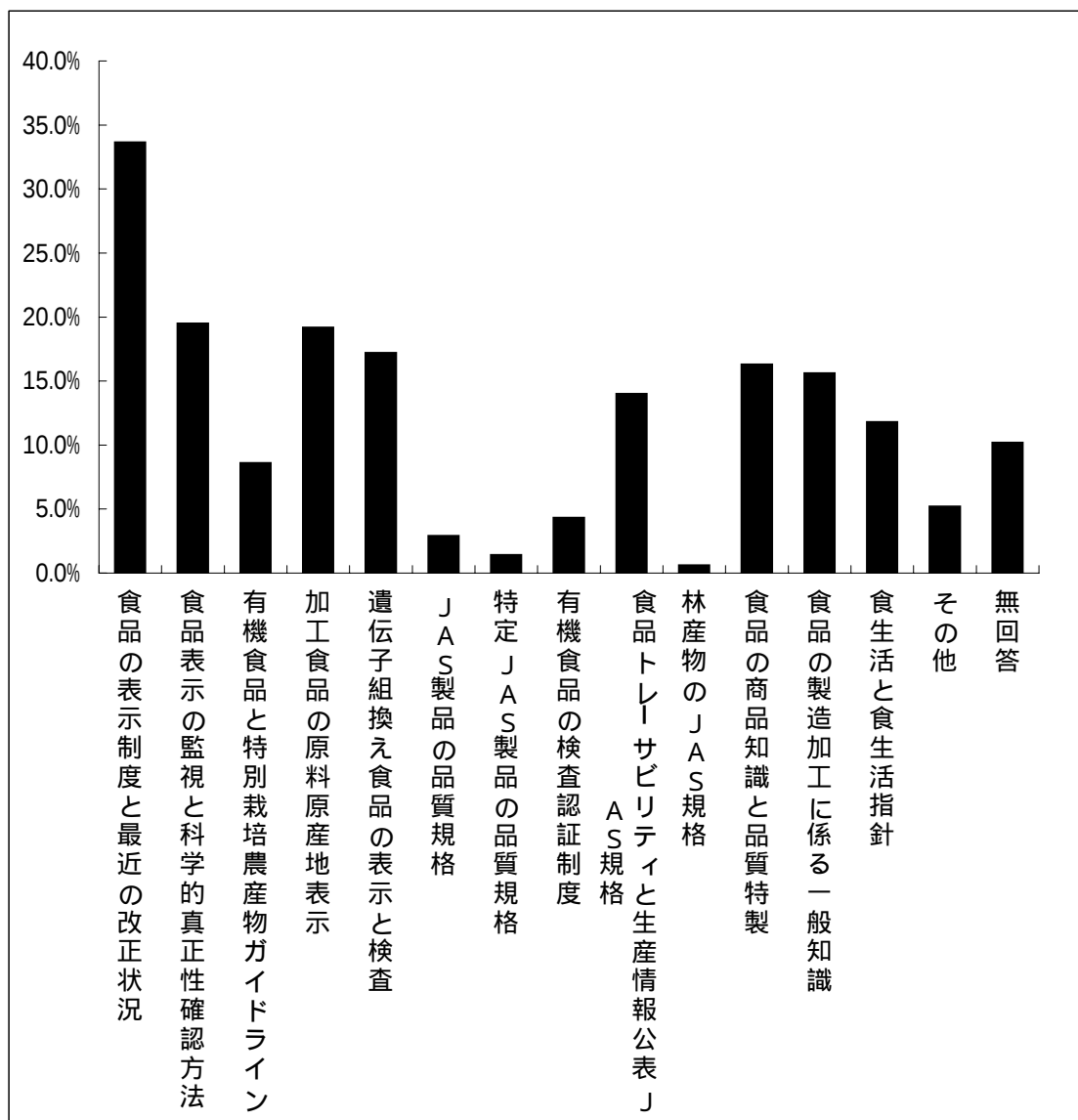
10.リスクコミュニケーションに関する資料(書籍など)を持っていますか。



11.あなたの職場等において、リスクコミュニケーション(情報伝達)について改善できるところがありましたか。



12.食品に関し、現在の関心事項について、該当するものの番号に○印を2つ以内でつけてください。(回答者数に対する割合)



■ 頂いた意見(アンケートより)

全体

一方通行になりがちなこの様な講習会で具体的な参加ができてよかった、説明も理解しやすかったとの意見があった。

また、目的が明確でない、指導者育成講座というねらい、目的と内容にズレがある、参加者に今後どのようなアクションを期待しているのかよくわからない、今後どのように活かしていったらいいのか悩むといった意見が各会場から寄せられた。

午前の講義

限られた時間の中でもわかりやすい講義であり、食品安全委員会の職務内容の説明も聞くことができよかったという意見があった。

一方、約60分(講演 がある場合には、45分)間に、「リスク分析について」、「食品安全委員会の取組み」、「リスク評価の例」、「リスクコミュニケーション」と内容が濃いため、講師の話し方が早口になりがちな点もみられた。内容を絞り込むなど、伝えたい内容を特化し具体例をあげて説明すべきとの意見もあった。

午後の演習

画期的な取り組みであり、新鮮で有意義であったとの意見が多かった。とくに、立場を離れ、視点を変えて考えることは大切であると認識したとの意見が各会場から寄せられた。クロスロードゲームを自ら実施したいという意見もあった。

一方、回答のないゲームにジレンマを感じ、答えを示してほしかったという意見や、意見をまとめる場があってもよかったのではないかととの意見もあった。

テーマや内容

頂いた意見は多岐に渡った。各会場から、今回の続編(講義+参加型ゲーム)や、午後の演習を発展させた形のものを希望するといった意見があった。

取り上げてほしいテーマとしては、リスクコミュニケーション実施上の問題点や経験談、リスクコミュニケーション実施後の評価方法、メディアとの関わり、ファシリテーター養成、具体的なコミュニケーションスキル等が比較的多くみられた。

また、各会場とも、健康食品、遺伝子組換え食品、残留農薬、食品添加物などの分野を今後のテーマとして取り上げてほしいという意見があった。

開催方法・その他

講義時間については賛否両論あった。また、広く広報したほうがいい、参加証をなるべく早く送付してほしいなどの事前準備段階について意見があった。また、講演の内容が多岐にわたるため、講演資料だけでも先に送付して予習できるようにし、意見交換の時間を多くしてほしいといった意見がいくつかあった。その他、会場の広さ、音響、温度、照明等についての意見があった。

厚生労働省におけるリスクコミュニケーションの取組について

(平成18年度)

1. 意見交換会等の開催等（詳細は別添参照）

(1) 厚生労働省（地方厚生局含む）企画の意見交換会等 開催状況

以下により計47回の意見交換会・説明会を開催した。

テーマ	開催時期	開催場所
BSE・米国産牛肉問題 (32回)	平成18年4月 1	札幌、仙台、東京、新潟、名古屋、 大阪、広島、高松、福岡、那覇
	平成18年6月 1	札幌、仙台、東京、新潟、名古屋、 大阪、広島、高松、福岡、那覇
	平成18年7-8月 1	札幌、仙台、東京、新潟、名古屋、 大阪、広島、高松、福岡、那覇
	平成19年1月	東京、神戸
残留農薬等 (11回)	平成18年4-5月 1	札幌、仙台、東京、富山、岐阜、 京都、米子、高松、福岡、那覇
	平成19年2月 2	秋田
輸入食品監視指導計画 (2回)	平成19年1月	東京、神戸
食品添加物 (2回)	平成19年1月	神戸
	平成19年2月 2	秋田
健康食品 (2回)	平成18年7月 2	徳島
	平成18年12月 2	奈良
食中毒 (1回)	平成18年9月 1	東京
HACCP (1回)	平成19年2月	静岡（現地視察型）

1：農林水産省と共同企画 2：地方自治体と共同企画

開催の形式

- ・ 募集規模は、概ね200人程度であるが、ポジティブリスト制度導入時の残留農薬等をテーマとしたものは300～500人の大型規模で実施。
- ・ 前半をテーマに係る説明や講演、後半をパネルディスカッション及び会場との意見交換の形式で実施。
- ・ コーディネーターはBSE、輸入食品以外は外部有識者へ依頼して実施。
- ・ HACCP をテーマとした食品製造施設見学を含めた現地視察型の意見交換会を実施。

(2) 他府省及び地方自治体企画の意見交換会等への参加

厚生労働省の担当官が講演者、パネリスト等として参加した。

他府省企画の意見交換会の参加

- ・ 農薬（農林水産省） 9 回
 - ・ 食育（食品安全委員会）1 回
 - ・ 家畜衛生等（農林水産省） 2 回
- 計 1 2 回

地方自治体企画の意見交換会の参加

- ・ 農薬（札幌、青森、秋田、山形(2)、栃木） 6 回
 - ・ 食品安全全般（富士宮、富山） 2 回
 - ・ 健康食品（岐阜） 1 回
- 計 9 回

2 . 意見募集（いわゆるパブリックコメント）の実施

「食品、添加物等の規格基準（昭和34年厚生省告示第370号）」の一部改正について、「大豆イソフラボンを含む特定保健用食品等の取扱いに関する指針（案）」について、「平成19年度輸入食品監視指導計画（案）」についてなど29件の意見募集を実施した。

3 . 情報の発信

(1) ホームページによる情報発信

厚生労働省のホームページに「食品安全情報」のページを設け、報道発表資料、食品の安全に関するQ & A、審議会等の会議資料、食品安全に係る施策情報などを掲載・引用している。ホームページの掲載内容について、より分かりやすいものとなるよう、整理を行った。

また、動画「輸入食品の安全確保を目指して～検疫所の仕事～」をホームページ上で配信する他、厚生労働省における食品安全に係る施策について、英語版のホームページを作成し、ホームページの充実を図った。

「食品安全情報」URL：

<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/iyaku/syoku-anzen/index.html>

(2) パンフレットの作成

次のパンフレットを作成し、地方自治体等を通じて広く配布した。なお、パンフレットは、ホームページからも入手できるようにしている。

- ・「食品に残留する農薬等に関する新しい制度（ポジティブリスト制度）について」（平成18年4月）
- ・「これからママになるあなたへ お魚について知っておいてほしいこと」（平成18年5月）
- ・「食品の安全確保に関する取組」改訂版（平成18年12月）

4 . リスクコミュニケーション担当者の研修

保健医療科学院食品衛生管理者コースにおいて、リスクコミュニケーション技法等の習得を目的とした科目を設け、地方自治体の食品衛生監視員（約50人）に対する研修を実施した。

5 . 関係行政機関等との連携・消費者団体との交流の促進

4府省（食品安全委員会、厚生労働省、農林水産省、環境省）リスクコミュニケーション担当官連絡会議を月2回程度の頻度で開催し、情報交換を行うなど、関係府省が連携してリスクコミュニケーションの推進を図っている。また、食品安全委員会リスクコミュニケーション専門調査会において、厚生労働省のリスクコミュニケーションの取組状況について逐次報告を行った。

消費者団体との懇談会、生活協同組合等の講演会などに出席し、説明や意見交換を行った。

6 . 食育

小学校高学年を対象とした食中毒予防に関する教材を作成した。教材について、地方自治体等を通じて広く周知するとともに、厚生労働省のホームページから入手できるようにしている。

平成19年3月

1 消費者等との意見交換会等の開催

(1) 意見交換会等

食品安全委員会及び厚生労働省と連携して、全国各地で各種テーマに関する意見交換会等を57回開催しました。(予定含む)

- | | |
|-------------------------|-----|
| ・農林水産省(本省)企画の意見交換会等 | 44回 |
| ・地方農政局等企画の意見交換会等 | 9回 |
| ・食品安全委員会・厚生労働省企画の意見交換会等 | 4回 |

BSE関係

- ・米国産牛肉輸入問題に関する意見交換会(4月11日～24日 全国10会場)
- ・米国産牛肉輸入問題に関する意見交換会(6月1日～14日 全国10会場)
- ・米国産牛肉輸入問題(対日輸出認定施設の現地調査結果)に関する説明会
(7月28日～8月24日 全国10会場) など

農薬・ポジティブリスト制度関係

- ・残留農薬等のポジティブリスト制度の導入に際しての生産から消費までの食品の安全確保の取組みに関する意見交換会(4月27日～5月23日 全国10会場)
- ・農薬に関する意見交換会(11月10日～2月22日 全国9会場)

その他

- ・家畜衛生に関する意見交換会(12月5日 東京)
- ・OIEコードの改正に関する意見交換会(2月2日 東京)
- ・植物検疫に関する意見交換会(3月14日 鹿児島、3月22日 東京(予定)) など

(2) 安全・安心モニター調査

リスクコミュニケーションの効率的運営に資するため、インターネットを活用したアンケート調査「安全・安心モニター調査」を4回実施しました。

- ・第1回 牛トレーサビリティ制度(12月下旬～1月上旬)
- ・第2回 食品の安全性への関心と食品安全に関する取組の評価(1月中旬～下旬)
- ・第3回 総合的病害虫・雑草管理(IPM)(2月下旬～3月上旬)
- ・第4回 食品の安全などに関する考え方(3月上旬～中旬)

(3) 地方農政局等における意見交換会等

全国各県の 7 地方農政局、沖縄総合事務局、39 農政事務所により実施しました。

地方農政局等企画の意見交換会（ 前掲 ）

シンポジウムや意見交換会等の主催 1,060 回（平成18年 4 月～12 月）

パネラーや講師の派遣 3,468 回（平成18年 4 月～12 月）

2 情報の提供

(1) 消費者団体等関係者が各地で行う勉強会へ積極的に参加するとともに、特に地方農政局等においては地域のネットワークを活用した情報提供を実施しました。

(2) 農林水産省本省、地方農政局及び(独)農林水産消費技術センター等のホームページを通じて、関係者に情報を提供しました。

(3) メールマガジン「食品安全エクスプレス」により、農林水産省をはじめ、食品安全委員会や厚生労働省の食品の安全と消費者の信頼の確保に関する情報を提供しました。（毎日）

・ 3 月15 日現在の配信数： 1 4 , 8 0 4 通

3 その他

(1) 意見・情報の募集（パブリックコメントの実施）

食品の安全性や家畜衛生、植物防疫等に係る規制の設定又は改廃の決定に際し、意見や情報の募集を43件実施しました。（ 3 月15 日現在 ）

(2) 関係行政機関との連携

食品安全委員会のリスクコミュニケーション専門調査会や、関係府省リスクコミュニケーション担当者連絡会議などを通じ、内閣府食品安全委員会、厚生労働省などの関係行政機関と緊密な連携を図りながら、リスクコミュニケーションを実施しました。